

■ 会長就任挨拶 ■

ごあいさつ

エネルギー・資源研究会会長
東京工業大学学長

田 中 郁 三



水科前会長から引き継いで、このたび本研究会の会長をお引き受けすることになりました。前田初代会長によって基礎を固められた当研究会は水科先生によって大きく飛躍致しました。微力な私ではありますが、本研究会の発展のために力を尽す積りでございますので、会員の皆様の御指導と御協力をお願い申し上げます。

水科先生は文部省の科学官の先輩として存じておりましたが、もっと近く御交誼を受けましたのは、先生が全体の責任者となられた文部省の「エネルギーに関する特別研究」の発足の時でありました。その特別研究では私は太陽光のエネルギー班の責任者となり先生のもとで協力してまいりました。この特別研究は重点領域研究となり現在まで続いておりますが、先生は亡くなられるまで情熱を持って長くその責任を果されました。

この20年間公害ならびに環境問題から石油危機へと世の中は大きく揺れましたが、それと平行して特別研究など環境からエネルギーと重点が移行していきましたが、又現在石油危機の緩和へと変貌しているようにみえます。環境からエネルギーへと一般の関心が移っていった時に、ある識者が言われた「マスコミがさわがなくなった時に初めて本格的な研究が進められていく」との言葉が私の記憶に今でも鮮明に残っています。

こゝにエネルギーと資源に関して産官学の共同研究が地道にかつ本格的に進められることが従来にもまして、今日程必要で大切な時期はないと考えています。エネルギーも資源についても基礎的な研究如何によっては従来考えていなかったドラスティックな変革をもたらす時代に入っております。もっとも有名な例は超電導でありましょう。そのなかの必要な元素としてイットリウムからビスマスへと、また恐らく近い将来に異った元素が重要になっていくことは疑う余地もないところと思われまふ。またそれを実用化とするとときにそれらの材料、どのような形状、システムに変えていか予測し難いものがあります。他の例としてウランの同位体分離にも従来の拡散法、超遠心法にとって変わってレーザー法によることも近い将来であろうかと思われまふ。またエネルギーといっても、同じ量のエネルギーでも質的に高いものに変換されていかれるでしょうし、エネルギー貯蔵法も本質的な変革が期待されています。現在エネルギーと資源に関してこのような大きな飛躍の時代に突入していることをひしひしと感じております。

水科先生の御協力および会員諸兄の御協力によって発展して参りましたこの研究会のさらに一層の発展がありますよう、皆様と一緒にエネルギーと資源問題の解決に取り組んで参りたいと思ひます。

これをもちまして会長就任のごあいさつと致します。